

ごあいさつ

いつも「信用組合」をご利用いただきありがとうございます。

私ども「全信組連（ぜんしんくみれん）」は、信用組合業界の中央金融機関として安定した経営と高い自己資本比率を維持し、全国の信用組合の経営を様々な面からサポートしています。

このガイドブックは、みなさまの最も身近な金融機関である信用組合を強力にサポートする「全信組連」の役割や経営内容をみなさまにもっと知っていただきたいとの願いから作成いたしました。

ぜひご一読いただければ幸いです。

今後とも信用組合ともどもよろしく願いいたします。

平成15年7月

全国信用協同組合連合会

も く じ

全信組連ってどんな金融機関なの？	1
資金量と貸出金はどれくらいあるの？	2
経営の健全性はどうなっているの？	3
どれくらいの利益を上げているの？	4
信用組合の組合員向けの商品も取り扱っているの？	5



全信組連ってどんな金融機関なの？

「全信組連は、全国の信用組合によって設立された信用組合のための中央金融機関です。
正式名称は、ぜんこくしんようきょうどうくみあいれんごうかい全国信用協同組合連合会といいます。」

全信組連は、4つの役割で信用組合を強力にサポートしています。

その1 信用組合間の資金仲介を行っています。

信用組合は、組合員のみなさまの金融機関です。このため信用組合は、組合員の事業や職業、季節、地理的な環境によって資金が必要な時期、ゆとりのある時期に違いがあります。

そこで全信組連は、資金にゆとりのある信用組合から預金を預かるとともに、資金を必要とする信用組合に融資することで、全国の信用組合が円滑に業務を行えるよう努めています。

その2 信用組合の余裕資金を運用しています。

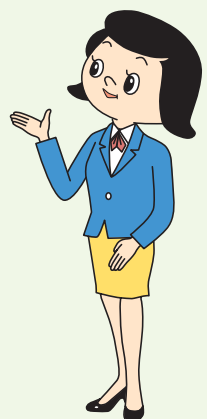
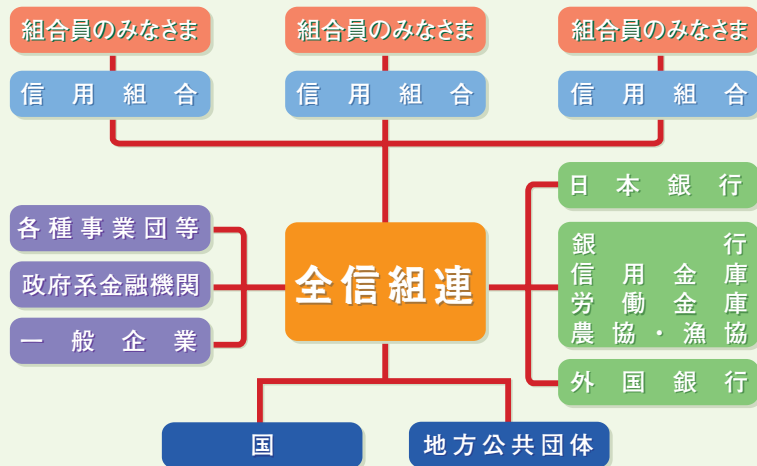
全信組連は、全国の信用組合の余裕資金を定期預金等のかたちで受入れ、これをまとめて貸出や国債等の債券などで運用し、余裕資金の効率的な運用をサポートしています。

その3 信用組合がみなさまにご提供する金融サービスを補完しています。

全信組連は、国・企業等と信用組合間の資金の受払い等を仲介することにより、全国の信用組合が、銀行に比べても遜色がない色々な金融サービスをみなさまにご提供できるよう努めています。

その4 信用組合の信用力向上に努めています。

全信組連は、みなさまが信用組合と安心してお取引いただけるよう、信用組合の経営状況を把握し、必要に応じて信用組合に対する助言・指導や資本増強支援を行うなど、信用組合の信用力向上に努めています。





資金量と貸出金はどれくらいあるの？

「3兆1,937億円の資金をお預かりし、6,720億円の貸出を行っています。また、余裕資金は国債・地方債や安全性の高い社債等の有価証券で運用しています。」

資金量

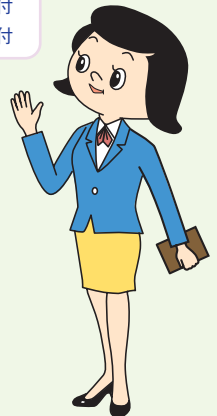
全信組連は、全国の信用組合をはじめ多くの機関・団体等から総額で3兆1,937億円（平成15年3月末現在）の資金を、主に定期預金として受け入れています。



(注) その他には、「外貨預金」、「譲渡性預金」と信用組合の短期運用のために受け入れている「組合短期資金」が含まれています。

貸出金

全信組連は、取引先である信用組合や一般企業等（一般貸付）のほか、組合員のみなさま（代理貸付）に、あわせて6,720億円（平成15年3月末現在）の貸出を行っています。



経営の健全性はどうなっているの？

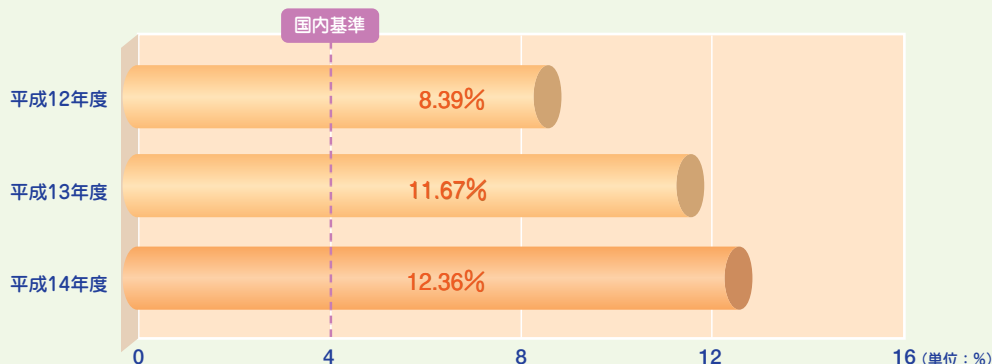


「自己資本比率は基準を大きく上回っており、
また、不良債権比率も低い水準にあります。」

自己資本比率

自己資本比率は、金融機関経営の健全性をはかる重要な指標のひとつです。海外に支店等を持つ金融機関は8%以上を、国内のみで営業を行う金融機関は4%以上を維持することが求められています。

全信組連は国内のみで営業を行う金融機関ですが、平成15年3月末の自己資本比率は12.36%と国内基準を大きく上回っており、また自己資本の大半（約95%）は、出資金や準備金などの最も安定した資本（Tier1）で構成されています。

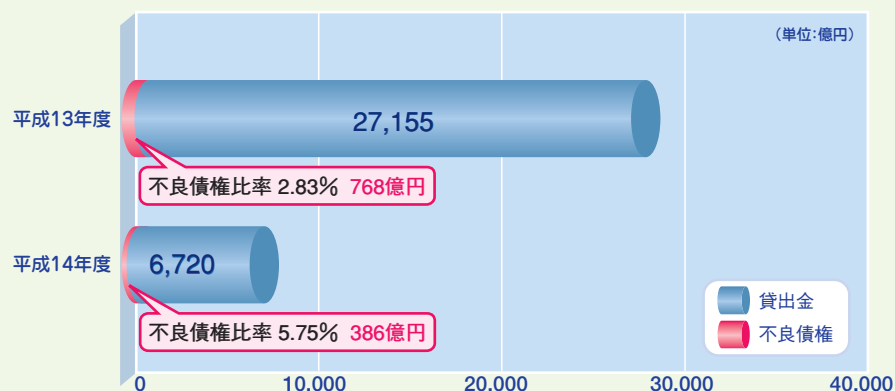


不良債権比率

不良債権とは、元本の返済や利払いが滞るなど、不良化した貸出金等のことで、その金額の貸出金全体に占める割合を不良債権比率といいます。

全信組連の平成15年3月末の不良債権比率は5.75%と昨年度から2.92ポイント上昇いたしましたが、不良債権額は昨年度の約半分に減少しています。

なお、これら不良債権については、「担保」や「保証」等によってそのほとんど（97.7%）が保全されています。





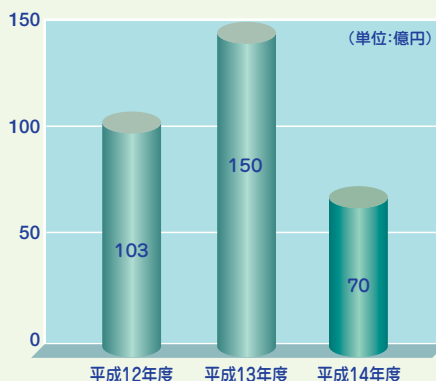
どれくらいの利益を上げているの？

「平成14年度は42億円の当期利益を計上いたしました。」

業 務 純 益

金融機関本来の活動による利益のことで、貸出、有価証券運用等により受け取った「利息・配当金」やお客さまへのサービス提供の対価として受け取った「手数料」などから、預金をはじめとする「支払利息」や業務を行ううえでかかった「経費」などを引いたものです。

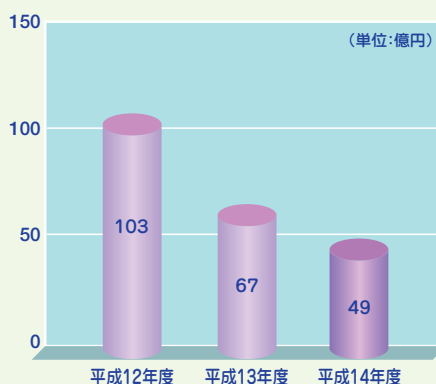
全信組連の平成14年度の業務純益は、70億円となりました。



経 常 利 益

金融機関の通常業務による利益のことで、「業務純益」に株式の売買やさまざまな引当金の積増等による損益を加減した利益のことです。

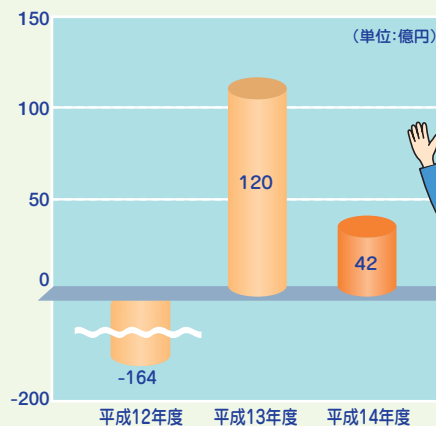
全信組連の平成14年度の経常利益は、将来の投資損失等の発生に備えて、引当金を積み増したため、業務純益を下回る49億円となりました。



当 期 利 益

「経常利益」にその年限りの特別な利益や損失を加減して、法人税等の税金を控除した後の最終的な利益のことです。

平成12年度は、国等に協力して一部信用組合の預金者保護のため行った融資の処理に伴う特別な費用の発生から損失を計上しましたが、平成13年度は120億円、平成14年度は42億円の当期利益を計上しています。



信用組合の組合員向けの商品も取り扱っているの？



「全信組連は、組合員のみなさまに、信用組合を通じて
さまざまなサービスを提供しています。」

代理貸付

全信組連は、信用組合を代理店として、組合員のみなさまに事業資金や住宅資金をご融資しています。

商品種類	金利	お使いみち	ご融資期間	ご融資金額
事業資金	変動	運転・設備資金	～20年	8億円まで
	固定		～10年	
	固定		～5年	
住宅資金	変動	住宅・宅地の購入、住宅の増改築など	～40年	6,000万円まで
	固定金利特約付 ^(注)		～20年	2,000万円まで
	固定		～35年	6,000万円まで
	段階金利付 ^(注)		～5年	300万円まで
フリーローン	固定	暮らしの資金として自由にご利用いただけます。	～5年	300万円まで
大型ローン	変動	自由にご利用いただけます。	～30年	1億円まで

(注)取扱開始時期は平成15年8月ごろを予定しています。

外国為替

全信組連は、信用組合を通じて外貨預金の受入れや外国送金、輸出為替の買取り、輸入信用状の発行、外貨両替などを取扱い、組合員のみなさまのさまざまなご要望にお応えしています。



国債・投資信託の窓口販売

全信組連は、組合員のみなさまの資産運用ニーズにお応えするため、信用組合が取扱う長期国債をはじめ個人向け国債や投資信託など、さまざまな運用商品を取り揃え、信用組合の証券窓販業務をサポートしています。

確定拠出年金業務

確定拠出年金制度（日本版401k）は、お客さま自身が運用商品を選び、その運用成績によって将来の年金受取額が決まる制度です。

全信組連は、信用組合を通じて組合員のみなさまがこの制度を利用できるよう、運用対象の商品として、確定拠出年金用定期預金と投資信託をご用意しています。



信用組合をバックアップする2つの制度

みなさまに安心して信用組合とお取引いただけるよう、2つの制度で信用組合を強力にバックアップしています。

全信組連は、今後も信用組合がみなさまのお役に立ち続けることができるよう努めてまいります。

全国信用組合保障基金制度

信用組合業界では、信用組合が資金を拠出して、約900億円の「保障基金」を設けており、全信組連がその運営を行っています。

この制度は、合併等を行う信用組合に対して資金援助を行うなど、業界の信用保持を図ることを目的として活用されています。

信用組合経営安定支援制度

全信組連は、今後も信用組合が経営の健全性を確保し、みなさまから信頼される金融機関であり続けるために、「信用組合経営安定支援制度」を運営しています。

この制度は、「モニタリング制度」、「監査・指導制度」および「資本増強支援制度」の3つの制度で構成されています。

I. モニタリング制度

全信組連が、信用組合から経営資料の提出を受け、経営内容を分析し経営上の問題点の有無等をチェックします。

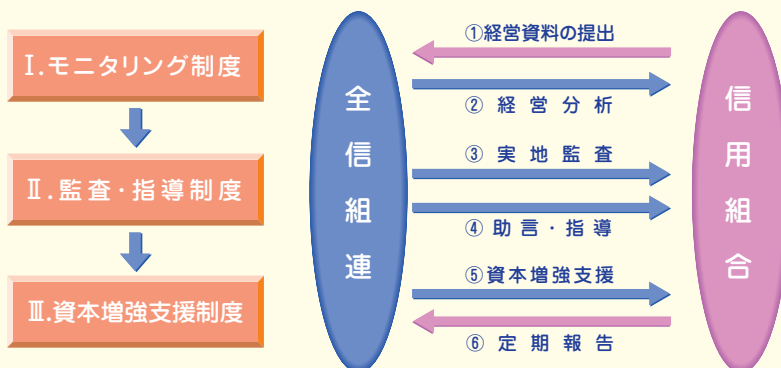
II. 監査・指導制度

信用組合業界の経営指導・監査機関である「全国信用組合監査機構」が必要に応じて信用組合の実地監査を行い、適切な助言・指導を行います。

III. 資本増強支援制度

全信組連が必要に応じて資本増強支援を行い、信用組合の自己資本比率の向上を図ります。

信用組合経営安定支援制度



全国信用協同組合連合会 総合企画部 経営企画課

〒104-8310 東京都中央区京橋1-9-1 TEL.03-3562-5115

<http://www.zenshinkumiren.jp>

平成15年7月発行 本誌は再生紙・大豆油インキを使用しています。